



社会福祉法人 聖隷福祉事業団
総合病院 聖隷三方原病院
聖隷おおぞら療育センター

〒433-8558
静岡県浜松市北区三方原町3453
TEL 053-437-1467

発行責任者 荻野和功
編集者 横地健治

2019年7月1日

聴かせるとは

横地 健治

重症心身障害児者では、聴覚が視覚より優位だと本通信で述べてきました(健常者は視覚優位です)。それでは、その人に聴いてももらいたいや声をどう提示したらいいかについて考えてみます。

健常者でも、聴かせたい音や声を相手にどう伝えるかは簡単なことではありません。例えば、こんなことです。自分が見えきれいな音を出す鈴を見つければ、相手にもこれを聴かせたいと思つたとします。相手と対面し「これはきれいな音がする鈴だから振つてごらん」と言つて、その鈴を手渡すのが普通です。相手は鈴を手に取り、振つて初めて音を聴くこととなります。ここで重要なのは、その人には、これから発する音を予期する心があり、音を出すために最適な振る動作を意図する心があり、その結果発する音に注意が注がれていることです。これは何も特殊な聴き方ではありません。聴くという行為はこのように予期・注意の上になり立つているのです。ただし、突然飛び込んでくる警報音はこれとは別です。

そもそも、空気や物体の振動はすべて音となりえます。生き物は仲間とのコミュニケーションのために空気を振動させて多様性のある声を出してします。そして、生き物は外界の出来事や仲間からの情報を得るために、その一部音域を聴き取る聴覚器官を備えています。このうちヒトでは、音声言語の聴き取りの比重が特に大きくなっています。このように外界は音で満たされています。よつて、特定の音を聴き取るということ

は、それ以外の音は無視するということになります。つまり、聴覚器官に届く音のうち、今の自分に関係ない音は無意識下に遮断し、意識には上らせません。これはかなり高度な神経活動です。その仕組みはよくわかっていませんが、ひとつの可能性は以下のようなものかもしれません。その生き物の生活経験から無視する音のリストができていて、今聴いた音がそのリストにあるか否かを即座に判断して、それがそのリストにあるなら、聴いて意味を探る神経回路に回さない。また、そのリストにない音でも、

少し聴いた後、今の自分に関係なさそうなら、同じく意味を探る神経回路からすぐに外してしまふ。こうしたふるい分けを逃れた音のみが聴覚理解神経回路に回り、過去の記憶と照合しその意味を探るのではないのでしょうか。前述の鈴では、振つて音が出る前から、これから発する音を聴き逃さないように注意が集中しています。逆に言えば、これから鳴る鈴の音以外は積極的に聴かないようにしています。このように音を聴くとは、その人が今そこで何をしようとしているか、これから先何をしようとしているかという状況と不可分な行為です。

そうなら、人に聴いてもらおうとしたら、その人がこれから聴くと予想される以外の音・声を聴かないように心の準備してもらわなければなりません。例えば、何の準備もなく、前述の鈴を耳元で鳴らしても、無視されるか(鈴はその時無視する音に含まれる)、びつくりされるだけです(驚愕の元であり、音色を鑑賞するものではない)。一般社会でも、人と会話する時には、顔を見合わせ、前置きの言葉を交わし本題に入りま

す。それでは、有意な言語理解のない重症心身障害児者に聴いてもらうためには、どんな準備があるのでしようか。まず、これから発する音が聴く価値がありそうだと注意を向けてもらわなければなりません。前述の鈴の例ならば、自分で鈴を振つて音を聴いてみようと思つてまで働きかけなければなりません。自分で鈴を振れる人は、振ろうとするのとでさらに鈴の音に注意を高めることができます。自分で鈴を振れない人では、介助者が持つ鈴を見て注意を高めるしかありません。ここで問題なのは、それを振つたら音が出るかと認識できない人の場合です。その場合は、音が出て驚くだけになるかもしれません。それでも、これを機会に、鈴から音が出ることを学べたら、貴重な生活経験となります。なお、鈴から音の出ることがわかつていて、その音に心が動かなかつたとしても、それはそれでいいでしょう。失望も価値ある生活体験です。要するに、聴かせるとは、本人がそれを聴こうという意図を持つように仕向けるということです。自然にそれが生まれれば、介助者がそれを促す働きかけをしなればなりません。

次に、本人が自然に音に気